



第22-41号

2022年8月4日

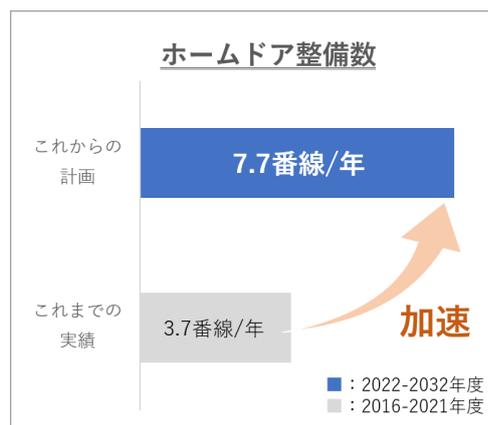
**年齢や障がいの有無にかかわらず、どなたにも一層安心して小田急線をご利用いただくために  
「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、設備の整備を推進します  
～新宿一本厚木間のホームドア整備、ホームと車両の段差・隙間の縮小、昇降機の更新等を実施～**

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 社長：星野 晃司）は、持続的にバリアフリー設備の整備と更新を推進していくための計画に関する「鉄道駅バリアフリー料金制度」\*の活用について、2022年8月4日（木）、国土交通省に届け出をいたしましたのでお知らせします。

当社では、駅構内におけるバリアフリー化に向け、段差を解消するエレベーター等の昇降機やスロープの設置による円滑な移動の実現をはじめ、バリアフリースイールの全駅への設置など、各種バリアフリー設備の整備を実施してきました。また、ホーム上の事故を未然に防止するホームドアは、新宿駅など1日あたり10万人以上のご利用をいただく駅において優先的に整備するなどして、現在までに8駅へ導入しています。2022年度には、特急車両にも対応したホームドアの導入を本厚木駅にて計画しています。

この度、年齢や障がいの有無にかかわらず、どなたにも一層安心してご移動いただける環境整備のため「鉄道駅バリアフリー料金制度」を活用し、設備の整備を推進します。2032年度を目標に新宿駅から本厚木駅までの全駅へホームドア設置を完了するなど、従来ペースから設置を加速していくほか、ホームと車両床面の段差・隙間の縮小対策を進めます。また、老朽化した昇降機や誘導案内のための運行情報提供設備等の更新を推進してまいります。

料金制度の活用は2023年3月頃からを予定しており、皆さまに薄く広く負担をいただき、バリアフリー設備の整備へ充当します。



ホームドア



段差・隙間縮小に資する設備



エレベーター



運行情報提供設備

当社では、安心、快適に小田急線をご利用いただくために、「鉄道駅バリアフリー料金制度」による整備の推進のほか、係員によるソフト面での接遇や先進技術の活用などを通じて、利便性の高い鉄道サービスの提供に努めてまいります。

\*「鉄道駅バリアフリー料金制度」とは、鉄道駅のバリアフリー化促進のために、受益する全ての利用者に薄く広く負担いただく制度として、2021年12月に国により創設されました

今後のバリアフリー設備の整備計画と「鉄道駅バリアフリー料金制度」の概要は下記のとおりです。

## 記

### 1. バリアフリー設備の整備計画

	設備	計画		整備済み
		2022~2025年度	2026~2032年度	~2021年度
新設	ホームドア	11駅32番線	19駅53番線	8駅22番線 <sup>※1</sup>
	段差・隙間縮小に資する設備	16駅45番線	19駅51番線	6駅14番線 <sup>※2</sup>
更新	エレベーター	4駅7基	15駅35基	64駅169基 <sup>※3</sup>
	エスカレーター	3駅5基	10駅28基	38駅172基
	運行情報提供設備	12駅	45駅	70駅

※1 新宿（一部ホーム未了）、代々木八幡、代々木上原、東北沢、下北沢、世田谷代田、梅ヶ丘、登戸

※2 新宿、代々木八幡、代々木上原、千歳船橋、成城学園前、渋谷

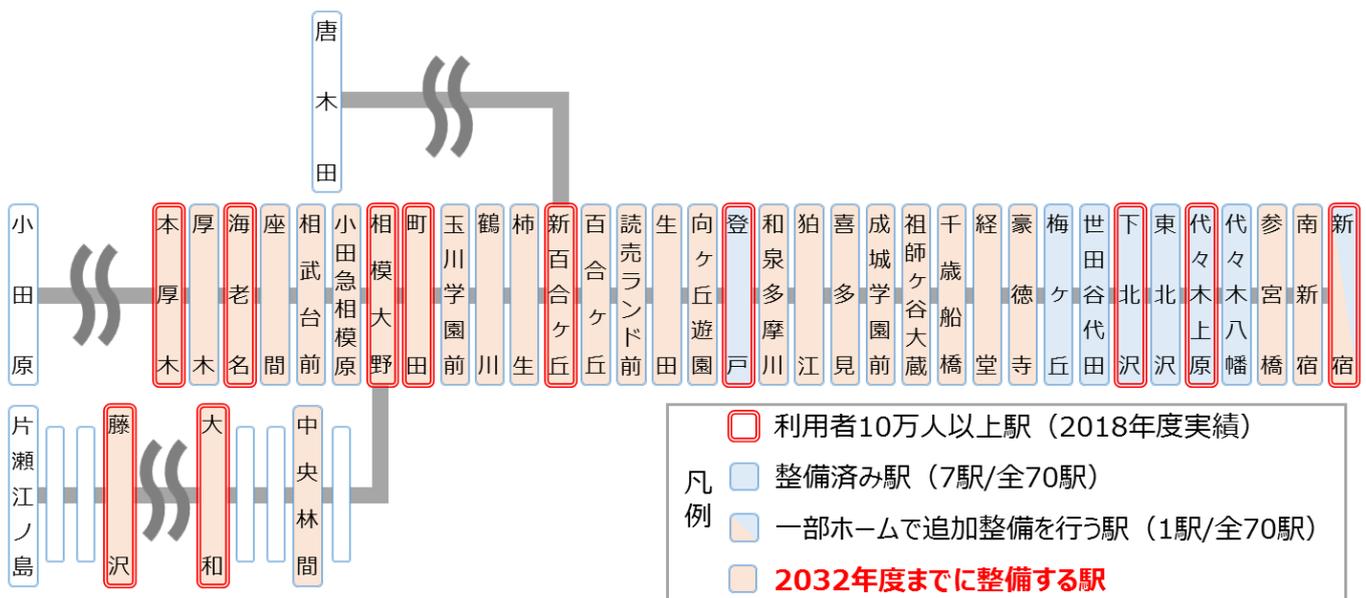
※3 全70駅にて、駅構内を段差無くご移動いただけるルートを確認しています

#### (1) ホームドアの整備

2032年度までに、小田急小田原線 新宿駅から本厚木駅までの各駅と、小田急江ノ島線 中央林間駅、大和駅、藤沢駅の計37駅107番線<sup>※</sup>への整備完了を目指します。

また、2033年度以降の整備計画は、決定次第お知らせします。なお、上記以外にも、各駅の状況や関係自治体との協議を踏まえ、整備を検討してまいります。

※ 一部ホームが未了の新宿駅を除く7駅で整備が完了しており、2022年度以降、30駅85番線にて新規または追加での整備を行います



ホームドア整備（イメージ）

#### (2) その他の設備の設置・更新

ホームドア整備にあわせて、ホームと車両の間にある段差・隙間を縮小することを目的に、ホームの嵩上げや楢ゴムの整備等を、2032年度までに96番線で実施します。

また、老朽化している昇降機については2032年度までにエレベーター42基、エスカレーター33基を更新することで安全性を確保するとともに、運行情報提供設備についても順次更新を行うことで、利便性維持に向け適切な管理に努めてまいります。

## 2. 「鉄道駅バリアフリー料金制度」の活用

### (1) 運賃への加算額

小田急線全線（小田原線・江ノ島線・多摩線）において、旅客運賃に下表記載の料金を加算し、バリアフリー設備の整備費に充当します。なお、小児IC運賃と通学定期旅客運賃は対象外とし、加算はありません。詳細は後日当社ホームページ等でお知らせします。

#### ① 普通旅客運賃

券種	ICカード（1円単位運賃）		きっぷ（10円単位運賃）※
	大人	小児	大人
設定額	10円	設定なし (一乗車一律50円を据え置き)	10円

#### ② 定期旅客運賃

券種	通勤※			通学
	1箇月	3箇月	6箇月	いずれも
設定額	600円	1,710円	3,240円	設定なし

※ 小児は料金加算後の大人の金額の半額です（10円未満切り上げ）

### (2) 收受開始日

2023年3月頃を予定しています。開始日は決定次第お知らせいたします。

## 3. お問い合わせ

小田急お客さまセンター（ガイダンス4番／お問い合わせ・ご案内）

電話：044-299-8200（9：00～17：00）

以上

### <参考> 現在実施中のソフト面での主な取り組み

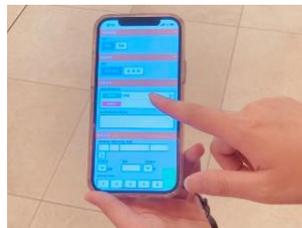
- ・ 民間資格「サービス介助士」を取得した係員の配置
- ・ 盲導犬ユーザー等をお招きした視覚障害サポートセミナー、誘導体験や座学の実施
- ・ 「お客さま介助システム」の活用による情報連絡体制の強化
- ・ 認知症サポーター養成講座を活用した、認知症高齢者等の手助けができる係員の養成
- ・ 社員向け手話講座の開催
- ・ 介助専属要員の配置によるご案内体制の強化
- ・ バリアフリー情報サイト「らくらくおでかけネット」への情報掲載 など



サービス介助士取得講座



視覚障害サポートセミナー



お客さま介助システム



認知症サポーター養成講座

## バリアフリー整備・徴収計画

鉄軌道事業者名	小田急電鉄株式会社
---------	-----------

整備方針	
全期間	・新宿～本厚木間、中央林間、大和、藤沢におけるホームドア整備 ・ホームと車両の段差隙間縮小に資する設備の整備 ・エレベーター、エスカレーター等の更新および維持管理
2022～2025年度	・新宿～本厚木間、中央林間、大和におけるホームドア整備 ・ホームと車両の段差隙間縮小に資する設備の整備 ・エレベーター、エスカレーター等の更新および維持管理
2026～2032年度	・新宿～本厚木間、藤沢におけるホームドア整備 ・ホームと車両の段差隙間縮小に資する設備の整備 ・エレベーター、エスカレーター等の更新および維持管理

料金額				
券種	定期外		定期券	
	普通券 (磁気券)	普通券 (IC)	通勤定期券	通学定期券
設定額 (円)	10	10	※ 1	0
年間徴収額 (百万円)	2,397 (※2)		2,366	0
料金徴収 対象駅	全70駅			
備考	※ 1 : 1ヵ月600円、3ヵ月1,710円、6ヵ月3,240円 ※ 2 : 小児IC利用は加算しない (全線一律50円) 小児普通券利用は加算後の大人の金額の半額とする (10円未満切り上げ) 団体乗車券、特殊回数券を含む			

※普通券の設定額については、大人1乗車当たりの料金を記載すること。

※定期券の設定額については、全ての定期券料金から算出した1乗車当たりの平均額を記載し、備考欄に各期間別 (1ヵ月・3ヵ月・6ヵ月など) の料金を記載すること。

※回数券や企画乗車券などの券種から徴収する場合は、備考欄に該当する券種名を記載するとともに、定期外の年間徴収額に該当する券種からの年間徴収額も含めて記載すること。

年間徴収額	4,763	百万円
徴収期間	10	年間 (2023.3～2033.3) ※2033年4月以降の継続について検討予定
総徴収額	47,628	百万円
総整備費	62,746	百万円
	2022～2025年度の計画 : 22,401百万円 2026～2032年度の計画 : 40,345百万円 ※2033年4月以降の継続について検討予定	

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2022.4～2026.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	11 駅	32 番線	17,353 百万円
段差隙間縮小に資する設備 ※1	16 駅	45 番線	百万円
備考	※1 段差隙間縮小に資する設備に関する費用はホームドア整備費に含む		
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
ホームドア ※2	6 駅	14 番線	200 百万円
エレベーター	4 駅	7 基	356 百万円
エスカレーター	3 駅	5 基	298 百万円
その他 ※3	各	駅	966 百万円
備考	※2 ホームドアの開閉制御機器の更新 ※3 運行情報提供設備等		
② 車両更新			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費（附帯費用含む）	3,016	百万円	
収受システム改修費	109	百万円	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	103	百万円	
備考			

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	22,401 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数	32	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	0	駅

## バリアフリー整備・徴収計画（計画期間：2026.4～2033.3）

整備内容			
(1) 設置・改良費（附帯費用含む）			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	19 駅	53 番線	27,790 百万円
段差隙間縮小に資する設備 ※1	19 駅	51 番線	百万円
備考	※1 段差隙間縮小に資する設備に関する費用はホームドア整備費に含む		
(2) 更新費（附帯費用含む）			
① 設備更新			
設備名	整備数		整備費
ホームドア	1 駅	2 番線	433 百万円
エレベーター	15 駅	35 基	1,742 百万円
エスカレーター	10 駅	28 基	1,094 百万円
その他 ※2	各 駅		1,690 百万円
備考	※2 運行情報提供設備等		
② 車両更新			
(3) 維持管理費・収受システム改修費・その他費用（駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）			
維持管理費（附帯費用含む）	7,570	百万円	
収受システム改修費	0	百万円	
その他費用 （駅務機器改修費・駅頭表示改修費など）	26	百万円	
備考	※ 2033年度以降の本制度活用の継続について検討予定のため、本制度終了時に必要となる収受システム改修費及びその他費用については、本様式には計上していない。		

※整備数：計画期間内に供用開始する設備の数

※整備費：計画期間内に整備する設備の費用（計画期間内に供用開始しない設備の費用も含む。）

計画期間内の整備費（（1）～（3）の合計）	40,345 百万円
-----------------------	------------

計画期間内の料金徴収によるホームドア設置番線数・段差解消駅数			
ホームドア設置番線数	53	番線	
段差解消駅数	一経路確保駅	0	駅
	二経路以上確保駅	0	駅